

事故から6年目を迎えた福島

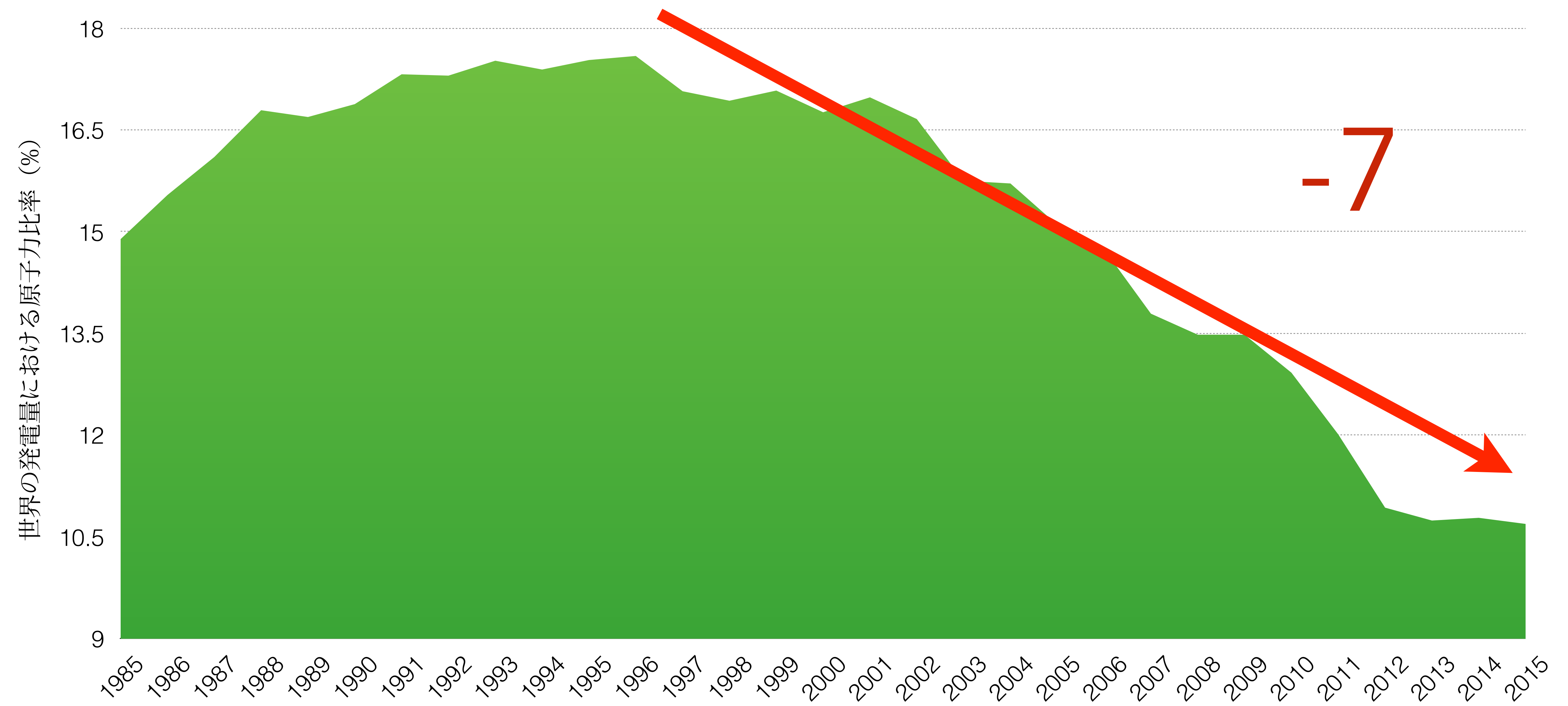
福島事故の恐怖は、
国際的に影響を及ぼしている
(例：ドイツ、台湾、韓国)

気候変動と環境にとって
原子力の国民の理解は重要な問題

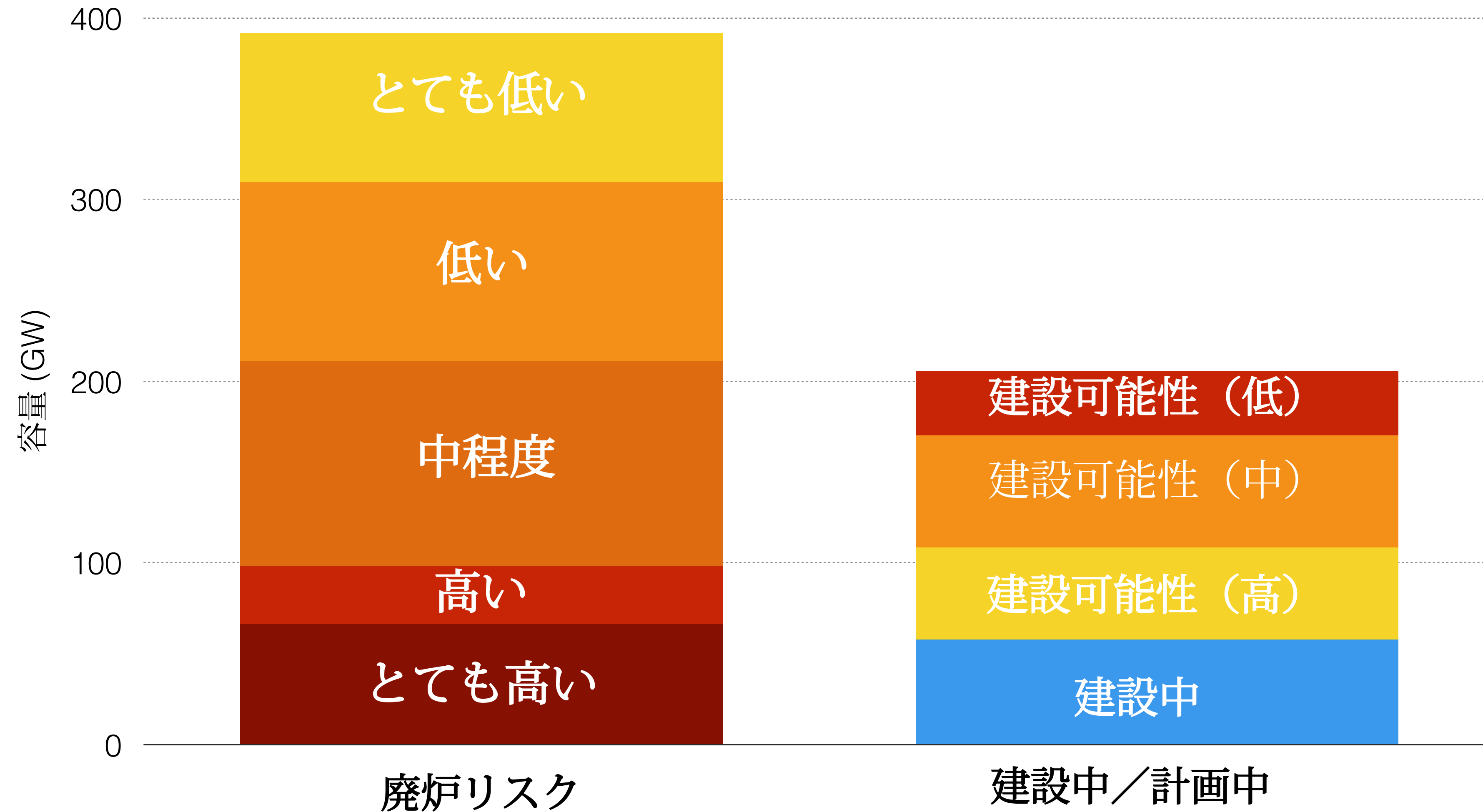
除染やトリチウム水の貯留が、
人々に不合理な恐怖を与えた



原子力発電の比率は減少



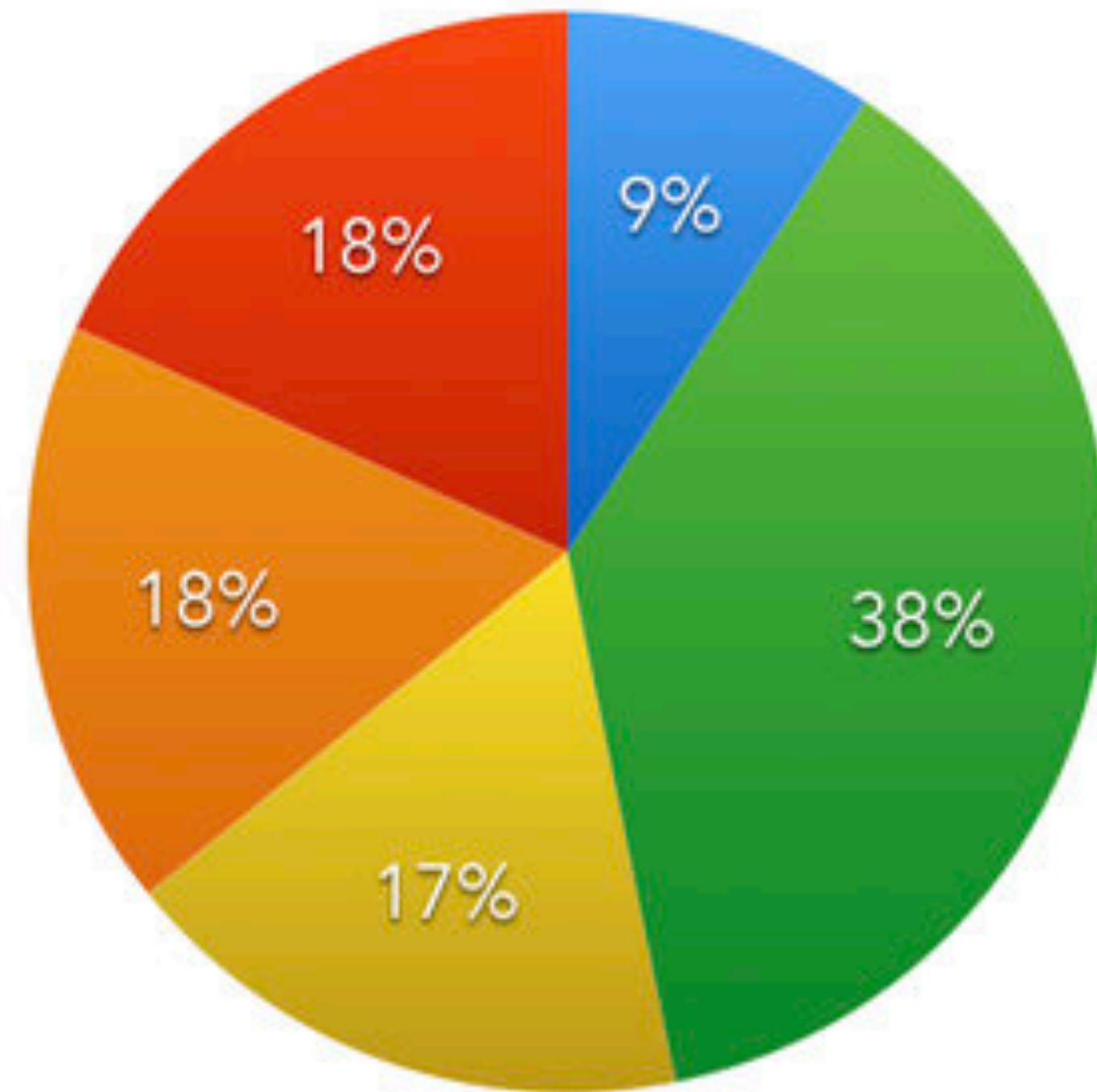
2030年までに、建設中・計画中の容量の 2倍以上の原子力発電所が閉鎖する可能性もある



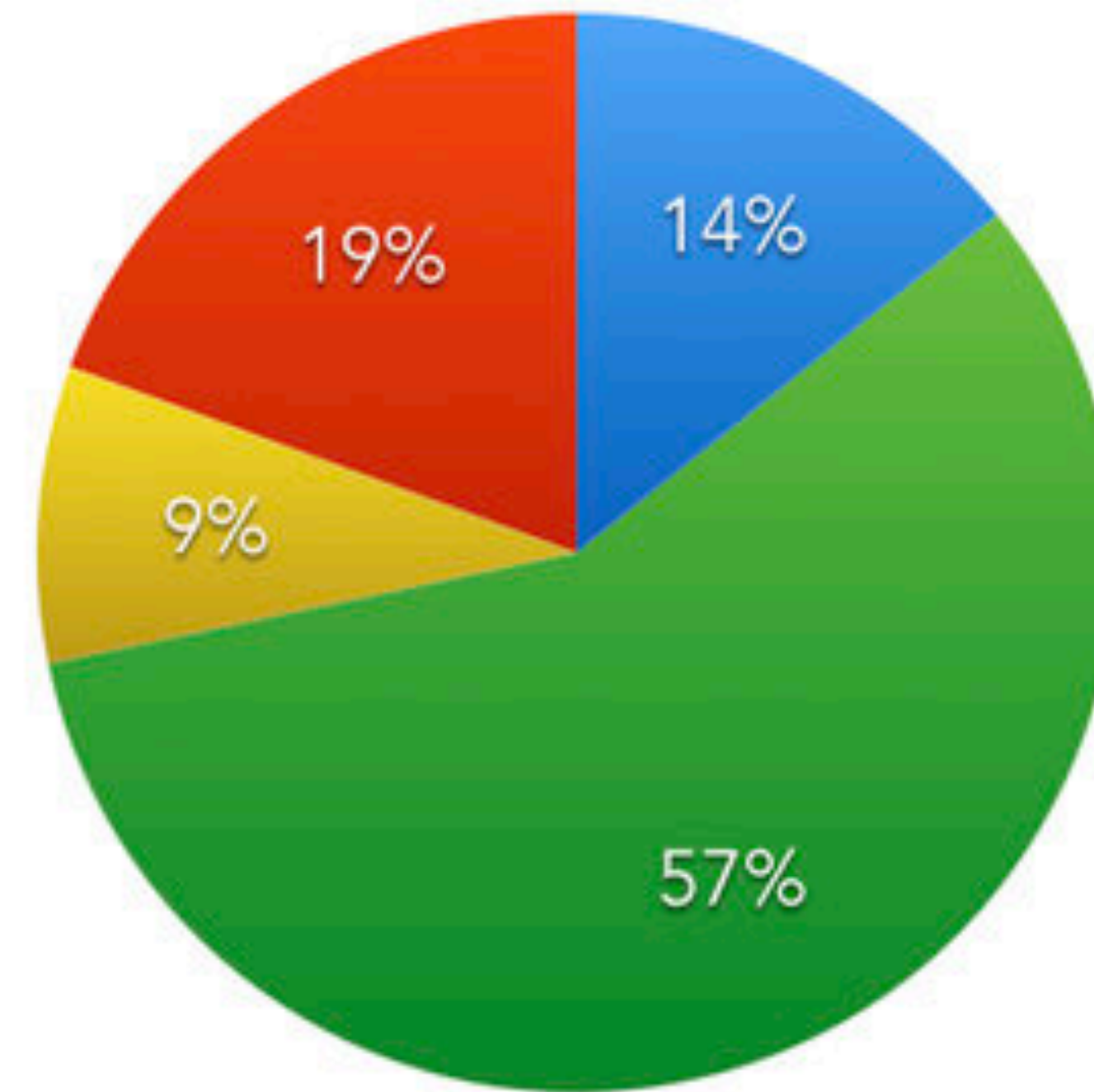
Source & Methods: EP Energy Progress Assessment, 2017. Plant-specific rankings based on economic and energy trend analysis, political and societal assessment, and expert elicitations. Longer methodology discussion can be found at environmentalprogress.org/research Last updated March 2, 2017. Email info@environmentalprogress.org for more information.

世界の原子力輸出市場のシェア（容量）

2030年までに
計画されているプロジェクト



2030年までに
完成する可能性が高い又はその
可能性があるプロジェクト



● 中国 ● ロシア ● フランス ● 日本 ● その他

福島事故から6年目を迎えて

日本は原子力事故に遭わないという過信

完全に不足した事故への備え

事故への備えが不足した原子力発電所の
近隣に住む人々の恐怖

福島事故以前の啓蒙活動は、
事故の回避に焦点

(自然放射線などの無害性ではなく)



仮訳

